台大日本語文研究第 45 期
2023 年 06 月，頁 121-150
2023-03-30 收稿，2023-05-22 通過刊登
DOI: 10.6183/NTUJP. 202306_(45).0006

利用文字探勘分析「專家精神」之要素
—以專家們認為的「何謂專家」為事例—

林蔚榕*

摘要

本論文從理解日本文化的觀點出發，利用文字探勘的手法，分析在日本被稱為專家的人們其認為的「專家精神」要素。分析素材取自日本 NHK 介紹各行各業專家的電視節目中專家們對於「你認為專家是甚麼?」這個問題的回答共 530 筆。首先說明資料分析的前置作業，接著製作語彙出現頻率表以及共現網路圖，再參考原文內容，統整出專家們所重視的「專家精神」要素之共同特徵。而語彙出現頻率中最高者是「zibun」，接著是「sigoto」、「keizoku」以及「iku」，這幾個語彙以「zibun」為中心，形成緊密的共起關係，這也是本論文分析的重要關鍵。

關鍵詞：專家、專家精神、共同特徵、文字探勘、共現網路

臺灣大學學術期刊資料庫

* 東吳大學日本語文學系助理教授

A Text Mining Analysis on the Elements of "Professionalism": Using "the Definition of a Professional" Perceived by Professionals as an Example

Lin,Wei-Jung*

Abstract

Starting from the perspective of understanding Japanese culture, this study uses text mining techniques to analyze the elements of the "professionalism" as perceived by professionals in Japan. The analysis material includes the answers of 530 professionals in various fields to the question "What do you think a professional is?" in a television program on NHK that introduces professionals in Japan. The first part of this study explains the pre-analysis work of the data, followed by the creation of a frequency list of vocabulary appearance and a co-occurrence network diagram. Then, referring to the original content of the answers, the common characteristics of the "professionalism" elements valued by the professionals are summarized. The vocabulary with the highest frequency of appearance is "zibun", followed by "sigoto", "keizoku", and "iku", which are centered on "zibun", forming a tight co-occurrence relationship. This is also a key aspect of this study's analysis.

Key words: professionals, professionalism, common characteristics, text mining, co-occurrence network

臺灣大學學術期刊資料庫

* Assistant Professor of the Department of Japanese Language and Culture, Soochow University

テキストマイニングを用いたプロフェッショナリズム要素の分析
―プロが思う「プロフェッショナルとは」を事例として―

林蔚榕*

要旨

本稿では、日本文化理解の観点から、テキストマイニング分析の手法を用い、日本のプロフェッショナルが考えるプロフェッショナリズムに共通する特徴を考察する。分析の事例として日本で既にプロフェッショナルと認められる者、つまり優れた専門家が NHK 番組『プロフェッショナル　仕事の流儀』の最後のシーンで語った「プロフェッショナルとは」の内容、合計 530 件を取り上げた。まず、テキストデータの〔前処理〕について説明した上で、530 件の事例に関して、テキストマイニングを用いて頻出語リストとその〔共起ネットワーク〕を作る。それから、頻出語リストと〔共起ネットワーク〕を手がかりとし、〔KWIC コンコーダンス〕で原文の文脈を確認しつつ、プロフェッショナルが思うプロフェッショナリズムに見られる共通の要素や傾向を探る。頻出語の中で最も多く出現したのは、“自分”、次いで、“仕事”と“継続” “いく”という三つの語であった。これらの語彙は“自分”を中心に強い共起関係で結ばれている。これは本論文における分析上での重要な手がかりでもある。

キーワード：プロフェッショナル、プロフェッショナリズム、共通する特徴、テキストマイニング、共起ネットワーク

臺灣大學學術期刊資料庫

* 東呉大学日本語文学科助理教授

テキストマイニングを用いたプロフェッショナリズム要素の分析
―プロが思う「プロフェッショナルとは」を事例として―

林蔚榕

一、はじめに

本稿の目的は、日本文化理解の観点から、NHK 番組『プロフェッショナル 仕事の流儀』の最後のシーンである「プロフェッショナルとは」への回答、合計 530 件を取り上げ、それをデータとして、テキストマイニング分析の手法を用い、日本のプロフェッショナルが考えるプロフェッショナリズムに共通する要素を考察することにある。

プロフェッショナリズムとは何かについて、辞書的な意味を調べてみると、『カタカナ語辞典 第 5 版』では「専門職業意識。プロ精神。専門家かたぎ。」と定義されており、『非営利用語辞典』[1]においては「専門家としての精神を指す」と説明されている[2]。また、学術的にも、プロフェッショナリズムの概念や要素に関して様々な視点から論じられてきたが、小野寺（2019）は多様な分野の職業を対象としたプロフェッショナリズムに関する先行研究を詳しくレビューしている。小野寺（2019）によると、プロフェッショナリズム研究は、Hall（1968）[3]が提唱したプロフェッショナリズムの 5 次元モデルを中心に発展していった。Hall の 5 次元とは、「自主的行動」「自己統制」「職業集団への準拠」「公益への献身性」「職業への献身性」というモデル構造である。そして、Hall（1968）が提出したモデルに

---

1 非営利法人研究学会によって編纂・刊行された非営利組織に関する総合的な辞典である。この辞典は、各種組合を含む非営利に関する「一般および学術的・専門的な用語として使われているもの」の説明、加えて「学究の用いる基本的な諸概念や諸理論」の簡潔な解明、または「非営利に固有な制度・機関・法制」の解説を網羅しようとするものである。
https://www.koueki.jp/dic/

2 詳しい定義については後述する。

3 Hall,R.H.（1968）Professionalization and bureaucratization, *American Sociological Review*, 33(1), pp.92-104（小野寺（2019）より再引用）

より、多様な分野の専門的職業人の態度・行動を測定することが可能になり、尺度の検討も行われるようになった。例えば、Snizek（1972）[4]は航空、原子力、化学工学のエンジニア、物理学者科学者を対象にプロフェッショナリズムを測定し、Hall（1968）の尺度を再評価している。また、瓜生原（2012）[5]は病院内移植コーディネーターの測定尺度を開発する上で、Hall（1968）と Snizek（1972）の尺度を用いている[6]。

このように、プロフェッショナリズムをめぐる研究は、Hall（1968）の 5 次元モデルに基づき、その形成プロセスに関する測定モデルの構築に焦点を置く論説が多い。それに対して、本稿は日本語教育の一環である日本文化理解の視点からプロフェッショナリズムの要素を考察する試みである。

また、小野寺（2019）はプロフェッショナリズムの実証研究を整理し、それを通して、プロフェッショナリズムのレベル、決定要因、結果要因について概観した。そこから分かるように、職業別によりプロフェッショナリズムの各次元におけるレベルの差があり[7]、また個人属性や制度的な要因、組織的な要因などもプロフェッショナリズムに影響を与えるが、本稿では分野や職種にかかわらず、日本で既にプロフェッショナルと認められる者、つまり優れた専門家に焦点を当てて、彼らが考えるプロフェッショナリズムの要素に共通する特徴をテキストマイニング分析の手法により探ってみる。なお、台湾におけるプロフェッショナルの特質に関する研究に、分析対象を特定の職業である料理人に絞り、日本の料理マンガを素材とした林（2019）があるが、本稿ではより広い視野で日本のプロフェッショナルが持つプロフェッショナリズムに共通する特徴や信念に着目

4 Snizek,W.E.（1972） Hall's professionalism scale: An empirical reassessment, *American Sociological Review*, 37(1),pp.109-114（小野寺（2019）より）

5 瓜生原葉子（2012）『医療の組織イノベーション：プロフェッショナリズムが移植医療を動かす』中央経済社（小野寺（2019）より）

6 小野寺（2019）pp.92-93

7 例えば、医師は「職業への献身性」、「自主的行動」のスコアが高い傾向にあった、株式ブローカー、広告代理人は「自己統制」と「自主的行動」の次元が高かった、など。小野寺（2019）P.94

臺灣大學圖書館期刊資料庫

する。

日本語学科生は卒業後、日本で就職したり、日本人や日本に関わる仕事に従事したりするチャンスが多い。在学中、日本でプロフェッショナルと呼ばれる人たちがどのようなプロフェッショナリズムを持って、仕事に臨んでいるのかを理解し、把握しておけば、日本や日本人とつながりのある職場に臨む際、より円滑に社会・職業の現場へ移行できると考えられる。

二、分析対象と分析方法

本稿では分析データとして日本 NHK のテレビ番組『プロフェッショナル 仕事の流儀』の最後のシーンである「プロフェッショナルとは」への回答例、合計 530 件を取り上げた。

『プロフェッショナル 仕事の流儀』は、2006 年 1 月 10 日から NHK で放送が開始されたドキュメンタリー番組である。番組では、さまざまな分野の第一線で活躍しているプロフェッショナルを取り上げ、その「仕事」を徹底的に掘り下げている。普段カメラの入れない仕事の現場での密着取材を通し、プロフェッショナル達が仕事に臨む姿勢や考え方、その生き方をつらぬく「流儀」が紹介されている。そして、番組の締めくくりとして、毎回放送の最後においてテーマ曲の旋律に合わせながら、「プロフェッショナルとは」という質問に対して、プロフェッショナル達が答える定番のシーンがある。その回答は人によって異なるが、どれもそのプロフェッショナルの個性と確固とした信念が込められた言葉である。

2006 年より始まったこの番組は 2022 年に、放送回数が 500 回を超え、それに等しい数のプロフェッショナルの格言・名言が記録されてきた。こうした約 500 件のデータは、様々な経験を積んできたプロフェッショナル達のありのままの言葉であり、そこには自分の仕事に対する考え、価値観が凝縮されている。

番組では、プロフェッショナル達に自由に語らせており、その回答は多種多様であった。こうした多数のテキストデータを客観的に

臺灣大學學術期刊資料庫

要約し、全体的傾向を把握するために、本稿では、立命館大学の樋口耕一教授が開発したフリー・ソフトウェア KH Coder（ver3.）[8]を用い、テキストマイニングという手法で分析を行う。

KH Coder を用いた研究は多岐にわたる分野で行われており、そのウェブページでは、現在 5903 件の研究事例が紹介されている[9]。台湾では日本語教育の分野において、人文社会系研究への応用や教育現場への接続を目指す研究が多く行われてきた。例えば、落合（2020）、曾（2021）、葉（2022）は、村上春樹の小説を対象とし、テキストマイニングによる文学研究への応用を試み、落合（2021）、落合・曾・王・葉（2022）では、論説や評論、小説といった文章の基本をはじめ、雑談、読解教材、歌詞、外国語文章との比較にも着目し、各ジャンルの文章をテキストマイニグで分析した。また、許（2022）は「アニメ・マンガの日本語」という授業において学習者がいかにアニメ・マンガの活用と日本語学習を関連づけているのかに注目し、学習者による自由記述回答をテキストマイニングで分析し、自己主導型学習の実態を可視化した。

このように、人文社会系研究、また日本語教育の教育活動において KH Coder は有効な分析ツールとして利用できることが示唆されている。そこで本稿では、テキストマイニングの一つの試みとして、異文化理解の観点から日本のプロフェッショナルの言葉をもとに、彼らが考えるプロフェッショナリズムを考察する。

分析に当たり、まず、テキストデータの〔前処理〕[10]について説明した上で、530 件の事例に関して、テキストマイニングを用いて頻出語リストとその〔共起ネットワーク〕を作る。それから、頻出語リストと〔共起ネットワーク〕を手がかりとし、〔KWIC[11]コンコーダンス〕で原文の文脈を確認しつつ、分析を行う。

---

8 KH Coder のウェブページ、https://khcoder.net/（参照 2023.03.27）
9 https://khcoder.net/bib.html?year=recent&auth=all&key=（参照 2023.03.27）
10 本稿では、KH Coder における機能（コマンド）は〔 〕で示す。
11 「KWIC」とは、「Key Words in Context」の意味である。

三、プロフェッショナルとプロフェッショナリズムの定義

日本語の「プロフェッショナル」は、英語の professional に当たる言葉で、短縮形で pro（プロ）とも言う。『新明解国語辞典 第八版』では、プロフェッショナルは「職業として行う様子だ。職業的。専門的。プロとも。〔何らかの専門的な職業に従事している人の意にも用いられる〕」と説明されている。このように、辞書的な意味においては、プロフェッショナルとは、あることを本職として従事する専門家、熟達者のことを指す。

一方、経験を通じてプロフェッショナルが育成されるプロセスを実証的な立場から分析した松尾（2006）は、特別な知識や技能を持つことはプロフェッショナルの必要条件であっても十分条件ではないと述べ、プロフェッショナルには技術面だけでなく、精神面においても高いレベルが求められていると指摘している[12]。また、波頭（2014）は、プロフェッショナルの本質を知るには、形式としての要件定義のみでなく、社会的役割や職業の本質まで理解しておくことが不可欠であると述べている。つまり、プロフェッショナルの実質的な定義としては「高度な職能の保有」「特定のクライアントの問題解決」「インディペンデントな立場」という形態的要件に加え、「公益への奉仕」「厳しい掟の遵守」という意味的要件も重要であるという[13]。

以上見てきたように、松尾（2006）及び波頭（2014）の両者とも形式上の定義にとらわれず、精神的側面を含む概念としてプロフェッショナルを捉えている。そして、その定義にも Hall（1968）が提唱したプロフェッショナリズムの概念に関わる要素が窺える。

一方、プロフェッショナルが持つプロフェッショナリズムに関しては、『カタカナ語辞典 第 5 版』で説明されたように、それは「専門職業意識。プロ精神。専門家かたぎ。」のことである。すなわち松尾（2006）及び波頭（2014）の定義で言及された精神的側面の概念

[12] 松尾（2006）、pp.7-8
[13] 波頭（2014）、pp.15-22

臺灣大學學術期刊資料庫

である。さらに小野寺（2019）では、プロフェッショナリズムはメタ認知の観点からプロフェッショナルの態度や行動を統制する重要な概念であると述べ、プロフェッショナリズムを「ビリーフシステム(信念体系)によって方向づけられている職業固有の態度と行動」と定義している。

以上、辞書的な意味と先行研究を踏まえ、本稿では、まずプロフェッショナルを「様々な分野において、優れた知識・スキルを持ち、自律的に活動することができ、他者へ奉仕したり自分の職業に貢献したいという気持ちを持つ人」と定義する。そして、プロフェッショナリズムをプロフェッショナル（専門家）の態度や行動に影響を与える重要な役割を果たすものとみなし、専門家としての精神や信念を指すことにする。

四、テキストデータの作成と〔前処理〕

（一）分析用ファイルの作成

分析に先だち、まず分析用ファイルを Excel で作成した。下の図1は完成した Excel ファイルの一部を示したものである。

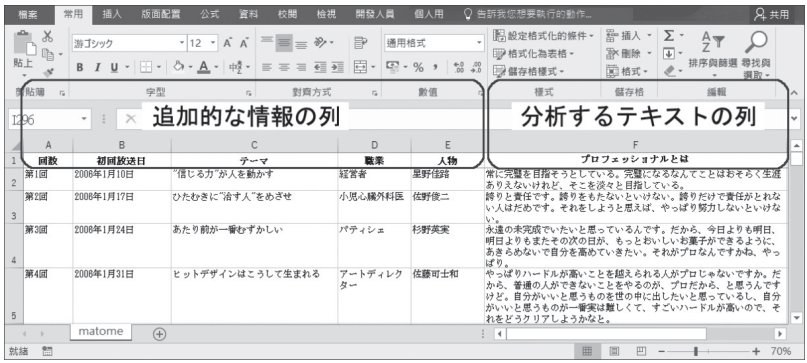


図 1 Excel で作成した分析用ファイルの一部

右は、KH Coder で分析するテキスト、すなわち「プロフェッショナルとは」という質問への回答を入力する列で、左からはそのテキストの追加的な情報として、順に「回数」、「初回放送日」、「テーマ」、

臺灣大學圖書館期刊資料庫

「職業」、「人物」という五つの列を取り入れた。そして、一行目には列名を、二行目以降は基本的に一行につき一人の情報を入力していくというルールで作成した。一回の放送で複数のプロフェッショナルが登場し、言葉を残した場合、それぞれ誰の回答なのかが分かれば、複数のセル[14]に分けて記録した。

「プロフェッショナルとは」という質問への回答であるテキストデータは、番組の公式ホームページでその回答内容が公開されたもの、または筆者が映像を入手し、実際に内容が確認できた放送回から取得している[15]。2022 年 8 月の時点で、2006 年 1 月 10 日に放送された第 1 回から、スペシャル（特別編）を含め、2022 年 6 月 24 日の第 509 回まで、全 530 件のテキストデータを収集した[16]。

（二）テキストデータの〔前処理〕

全 530 件の「プロフェッショナルとは」のテキストデータを分析対象とし、KH Coder を用いて〔前処理〕を実行した。KH Coder の〔前処理〕では、形態素解析[17]と呼ばれる処理が行われ、語が自動的に取り出される。しかし、コンピューターが自動的に判断しているため、意図に合わない語の切り出し方をする場合もあれば、分析の対象から外したほうがデータの精度が上がりそうな場合もある。また、異字同義語（例えば、「プロフェッショナル」と「プロ」）は、KH Coder ではそれぞれ別の語と認識され、同じ語としてカウントされない。

このように、テキストデータをそのまま分析すると、場合によって重要な語が分析結果から消えたり、意図に合わない語の分割で意味が大きく変わったりするおそれもある。そのため、〔前処理〕実施後、分析者がその時点でどのような語が抽出されているのか、抽出語の暫定的なリストを確認し、手作業で調整するという対応が必要

[14] Excel でワークシート内の文字や数字を入力する枠一マス分のことである。
[15]「プロフェッショナルとは」何かを問う定番シーンがなかった放送回もある。
[16] データ数が放送回数より多いのは、スペシャル回が多かったこと、また一回の放送で複数のプロフェッショナルが言葉を残した回があったからである。
[17] 形態素解析とは、文章を「意味をもつ最小単位（＝形態素）」に分割する作業のことを指し、KH Coder では基本的に形態素のことを「語」と呼んでいる。

となる[18]。そこで本稿では、まず、〔表記ゆれの吸収〕という機能で、異字同義語を表 1 のように統一した。

表 1 〔表記ゆれの吸収〕で統一した語

異字同義語	**統一した語**
継続、続ける、永続、持続	**継続**
プロフェッショナル、プロ	**プロフェッショナル**
挑戦、チャレンジ	**挑戦**
持つ、もつ	**持つ**
分かる、わかる	**分かる**
諦める、あきらめる	**諦める**
行く、いく	**いく**[19]
作る、つくる	**作る**
お客、お客様	**お客様**
すべて、全て、全部	**全部**
言う、いう	**言う**
自分、自分自身	**自分**
人、人間	**人**

そして、最初の〔前処理〕で二つの語に分割された「今まで」「自分自身」と、KH Coder のデフォルト設定において除外された「こだわる」「いく」[20]という四つの語を〔語の取捨選択〕の〔強制抽出する語の指定〕という機能を用いて抽出した。

（三）語の抽出と頻出語の確認

以上の調整を踏まえ、〔前処理〕を再実行した。この時点で抽出された語のうち、出現数 15 回以上の語とその出現頻度をまとめたものが表 2 である。

[18] 牛澤（2021）、pp.29-30
[19] 補助動詞の「ていく」が含まれているため、「いく」で統一した。
[20] 樋口（2020）では、日本語データの場合、KH Coder のデフォルト設定では、平仮名のみからなる語を集めた品詞であり、「する」「ある」「ない」のような一般的な語が出力から除外されていると説明している（P.163）。ここでは、基本的にデフォルト設定に従うが、「こだわる」と「いく」は本稿の分析においては有意義な語であるため、オプション設定で強制抽出した。

表 2 「プロフェッショナルとは」における頻出語

抽出語	頻度	抽出語	頻度	抽出語	頻度
思う	477	技術	25	進む	18
人	471	全部	24	責任	18
プロフェッショナル	312	満足	24	道	18
自分	304	次	23	与える	18
言う	188	大事	23	一番	17
仕事	141	最後	22	作る	17
継続	140	新しい	22	生きる	17
いく	136	当たり前	22	知る	17
持つ	119	前	21	出す	16
努力	60	お客様	20	日々	16
常に	56	求める	20	必要	16
考える	41	向き合う	20	力	16
挑戦	37	終わる	20	応える	15
心	36	情熱	20	信念	15
結果	35	本当に	20	世界	15
分かる	35	楽しむ	19	難しい	15
今	32	強い	19	目指す	15
信じる	30	見る	19		
諦める	30	相手	19		
気持ち	29	状況	18		

ここでは、まず上位にある網掛部分の文字に注目する。本稿の分析対象であるテキストデータは、「プロフェッショナルとは」という質問に対し、プロフェッショナルそれぞれが思う「プロフェッショナル」の本質について答えたものである。そのため、「プロフェッショナル」と「思う」が上位にあるのは想定内の結果と言えよう。さらに、KH Coder の〔KWIC コンコーダンス〕のコマンドを用い、表 2 の頻出語が実際回答の中でどのように使われているのかを探索した。

その結果、下の表 3 に挙げた例[21]が示したように、「思う」は主に自分の考えを示す時、「言う」は言葉を定義する時や説明する時に頻繁に使用されている。また、「(プロフェッショナルとは) ～という人 (人間) だ」という表現も多数使われており、名詞の「人」が上位に上がったと考えられる。よって、以上の文脈確認を踏まえ、本稿では分析に当たり、「思う」「人」「言う」「プロフェッショナル」

臺灣大學學術期刊資料庫

[21] 紙幅の都合上、ここでは四、五年ごとそれぞれ一つの代表例を取り上げる。

という四つの語（網掛のある語）を、「プロフェッショナルとは」という質問に答える際に「一般的に使われる語」と判断し、〔語の取捨選択〕の〔使用しない語の指定〕という機能を使い、取り除いた。

表 3 「一般的に使われる語」が用いられたテキスト例

第 5 回、弁護士、宇都宮健児、2006 年 2 月 7 日放送
弱者のためにとことんやる人、徹底的にやっている人だろうと思いますけどね。もう少し広く考えれば、他人のために頑張れる、一生懸命に仕事をやっている。そういうことなんだろうと思うんですけどね。
第 154 回、院内学級教師、副島賢和、2011 年 1 月 24 日放送
そこにいること、在ることの大切さを知っている人。あたりまえのことを、あたりまえに行える人。目に見えないものも、しっかり受け止めることができる人だと思います
第 264 回、水道技術者、笑喜久文、2015 年 5 月 18 日放送
漏水について言うと、いかに多くの音を聴くか。そういう経験をいっぱい積んだ人。それをいざという時に出せる人がプロフェッショナルかなと思ってます。
第 423 回、実業家、三木谷浩史、2020 年 2 月 25 日放送
プロフェッショナルってのは、僕的に言うと、仕事が趣味っていう。そういうことかなと思います。仕事が社会的にも意味があるし、自分の人生にとっても意味がある。そしてまた楽しみでもあるっていうことかなという風に思いますね。

以上の手作業での調整を踏まえ、再実行したところ、分析に使用される語として、総抽出語数は 7,804 語、異なり語数は 1,768 語が抽出された[22]。次の節では、抽出された語に基づき、テキストマイニングによるデータの可視化を試みる。

五、プロフェッショナリズムの要素に関する分析

（一）〔共起ネットワーク〕によるテキストデータの可視化

KH Coder の〔共起ネットワーク〕は、語と語の共起関係を表すための機能である。このコマンドを用いれば、各語の出現パターンがその多少と共に図示され、可視化される。次の図 2 は〔共起ネットワーク〕のコマンドを用い、「プロフェッショナルとは」の回答の中で、共起の程度が強い語を線で結んだネットワークである[23]。

[22] 助詞や助動詞など、どのような文章にでも現れる一般的な語がデフォルト設定で除外されている。

[23] 出現数による語の取捨選択に関しては最小出現数を 15 に設定し、描画する共起関係の絞り込みにおいては、描画数を 60 に設定した。また、語の色分け

臺灣醫學會期刊資料庫

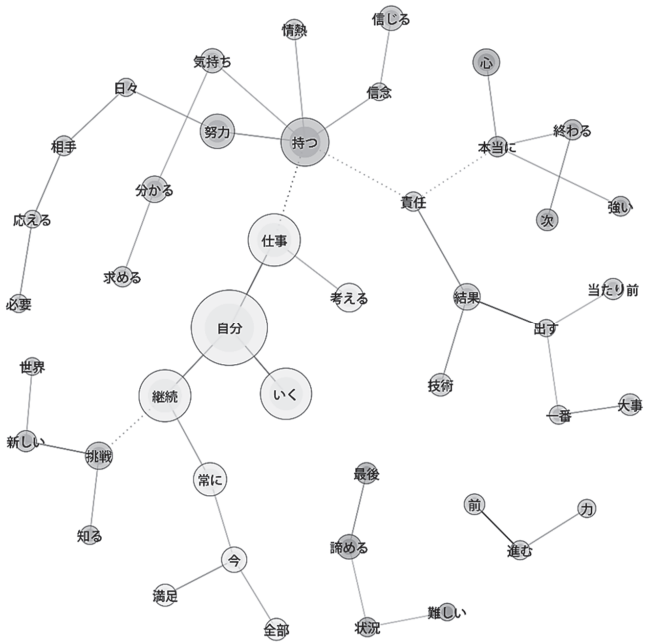


図 2 「プロフェッショナルとは」の〔共起ネットワーク〕

〔共起ネットワーク〕では、語と語が線で結ばれているかどうかが共起性や関連性の有無を表し、線の太さが関連の強さを表現している。そして、円の大きさはその語の出現頻度の多少を表し、円が大きいほど、出現回数が多いという意味である。

（二）日本のプロフェッショナルが考えるプロフェッショナリズム

前述したように、Hall（1968）によって提示された 5 次元モデルを基に、プロフェッショナリズムが概念化されてきた。分析に先立ち、表 4 では、プロフェッショナリズム研究の現況について詳しく整理した小野寺（2019）を参考にし、Hall（1968）のモデルに基づいて発展してきたプロフェッショナリズムの類型について整理し、概観する[24]。なお、「自律性」と「献身性」の二分類は、小野寺（2019）が次元の内容的な類似性によって分類し、提示したものである。

は「サブグラフ検出（modularity）」という方法を選択し、さらに〔最小スパニング・ツリーだけを描画〕と〔強い共起関係ほど濃い線に〕という機能を用い、線を整理し、視覚的に補強した。

[24] 小野寺（2019）pp.90-93

表 4 プロフェッショナリズムの次元

自律性	①**「自主的行動」**外的圧力がなく自身の判断で物事を決定して行動することである。
	②**「自己統制」**仕事の質を保証する態度や行動および能力を意味し、同業者間での評価による質の保証である。
	③**「職業集団への準拠」**職業団体や組織の規定に沿った行動をとることや職業団体への帰属を意味する。
献身性	④**「公益への献身性」**他者を助けたいという欲求に基づく公共利益への奉仕の気持ちである。
	⑤**「職業への献身性」**外的報酬がなくてもその専門分野で働きたいと思う職業への召命感を表している。

以下、こうしたプロフェッショナリズムの次元を念頭に置き、頻出語リスト（表 2）と〔共起ネットワーク〕（図 2）を手がかりとし、原文の文脈を確認しつつ、日本のプロフェッショナルが考えるプロフェッショナリズムの共通要素を分析する。以下、KH Coder によって抽出された語は“ ”で示す。

図 2 の〔共起ネットワーク〕から分かるように、プロフェッショナルの回答において最も多く用いられたのは、“自分”（304 回）である。次いで、“仕事”（141 回）、“継続”（140 回）、“いく”（136 回）という三つの語も“自分”の数には及ばないが、出現頻度が百回以上ある特徴的なキーワードであり、“自分”と強い共起関係で結ばれている。まず、“自分”をめぐる共起関係から見てみる。

1. 多角的に自己理解ができること

“自分”に言及した回答について原文での文脈を探ってみると、自己理解に関する発話が多く観察された。そこに幾つかの類型が見られる。ここでは大きく二つのタイプに分ける。

（1）「自分がなすべき行動と限界に対する理解」

まず、下の表 5❶のように「“自分”のやるべきこと、できること」という表現が頻繁に出ている。そこから分かるように、プロフェッショナルが考えるプロフェッショナリズムの重要な要素の一つは「自分のやるべきことを分かっていて責任を持つこと」であろう。そして、❷のように、「“自分”の限界、使命、能力、可能性」といっ

臺灣大學學術期刊資料庫

た発言のタイプも多く見られた。つまり、プロフェッショナルは「自分の使命や能力、限界を知っている人」である。

表 5 「自分がなすべき行動と限界への理解」回答例（抜粋[25]）

❶“自分”のやるべきこと、できること
・「**“自分”のやること**を分かっていて、本当に責任を持って仕事をする人。」2007.2.22/専門看護師/北村愛子
・「**“自分”としてやらなきゃいけないこと**、それが満べんなくバラツキなく**できること**だ。」2010.1.19/移植外科医/加藤友朗
・「“自分”がたっている、その足元で**“自分”の出来ることを一生懸命にそのことに命をかける**。」2012.8.27/糀屋女将/浅利妙峰
・「**“自分”のできること**とか、“自分”のオリジナリティをちゃんと活用している人だと思います。」2015.1.5/ウイルス学者/高田礼人
・「どこにもない、**“自分”にしかできないものを生み出し続け**、それをさらに日々進化させ続けられる人。」2016.10.24/パン職人/竹内久典
❷“自分”の限界、使命、能力、可能性
・「どのような状況においても**“自分”の使命**はきちっと果たす。」2008.6.10/獣医師/齊藤慶輔
・「**“自分”の可能性と限界を知っている人**。」2009.6.9/乳腺外科医/中村清吾
・「目の前に委ねられた人々に対して最善を尽くして**“自分”の与えられた使命を果たしていく**。」2010.3.16/訪問看護師/秋山正子
・「**“自分”の限界がどこにあるかっていうのを経験とかから知って**、それに向かってたゆまぬ努力を続けること。」2011.12.5/宇宙飛行士/若田光一
・「**“自分”に与えられた役割をきちんと理解して、“自分”の能力、限界も理解して**、最高の仕事をする事にこだわる人。」2017.1.30/介助犬トレーナー/水上言

（2）「自分の内面への理解」

表 5 の何をすべきか、何ができるかといった「自分がなすべき行動や限界に対する理解」に対し、下の表 6❸のように“自分”の未熟さや失敗など、「“自分”の弱み」に着目した発言と、❹の「“自分”を信じる」という回答も見られた。表 6 の事例に示したように、自分の足りなさや未熟さを常に心がけることはプロフェッショナルが抱える大きな課題でもある。このように弱みであれ強みであれ、自分自身に向き合い、受け止めるということは「自分の内面への理解」として捉えられると考えられる。

臺灣大學學術期刊資料庫

[25] 紙幅の都合上、ここでは文脈が分かることを前提とし、抽出語が用いられた部分だけ抜粋する。

表 6 「自分の内面への理解」回答例（抜粋）

❸「“自分”の弱みを知る」
・「**“自分”のダメなとこ、足りないところ**は、本当に分かった時に、それをちゃんと、認めて」2012.5.7/自殺防止/藤藪庸一
・「**“自分”の未熟さ**を常に感じて、認めることができる人。」2015.9.7/恐竜学者/小林快次
・「**“自分”が何もわかっていないということをわかっていること**。」2017.9.11/研究者/山中伸弥
・「**今日した失敗を“自分”で認めて**、それを明日の課題として一日一日を大切に歩んでいくこと。」2019.2.11/すし職人/天野功
❹「“自分”を信じる」
・「**“自分”の仕事に自信をもっているかどうか**、それがプロフェッショナルだと思います。」2012.6.4/建築家/手塚貴晴
・「どういう苦しい局面でも、どんなに分からない未知の世界に入ってもですね、**やっぱり“自分”を信じる事というか、それに尽きますね**。」2014.1.13/囲碁棋士/井山裕太
・「**しっかり“自分”を信じて、**相手を信じて、**相手を信じた“自分”を信じて**っていう。」2019.2.4/演出振付家/MIKIKO
・「**最後まで“自分”を信じ切れる人**。」2021.11.16/スタイリスト/大草直子

表 5 と表 6 の事例に示したように、プロフェッショナルの思考の軸において、常に“自分”というキーワードが存在し、強く意識されている。彼らの発言からも自分の行動や限界をよく理解し、自分の弱み・強みにも真摯に向き合っていく姿勢が強く感じられる。あらゆる視点を使って様々な自分を知ること、つまり多角的に自己理解できることは、前述した「自主的行動」と「自己統制」の次元につながる重要な要素だと考えられる。そこからも窺えるように、日本のプロフェッショナルは「自主的行動」と「自己統制」の次元が高い傾向にある。

2.「仕事＝自分ごと」の仕事意識

“仕事”は、“自分”に次ぐ出現頻度の多い語で、“自分”と共起関係を持っている。“自分”と“仕事”が近い位置にある回答の文脈を確認すると、下の表 7 で分かるように、プロフェッショナルの回答では「“自分”の“仕事”」をはじめ、「“自分”の言葉」や「“自分”流」で仕事をするといった表現が多く、その言葉から「仕事＝自分ごと」という概念が読み取れる。また、プロフェッショナルが“自分”の“仕事”について言及する際に、責任感や愛情、真摯な態度、自信といった仕事に対する心がけや姿勢を表す言葉が一緒に使われる傾向も見て

臺灣大學學術期刊資料庫

取れる。

表 7「仕事＝自分ごと」回答例（抜粋）

- 「**“自分”の言葉で“仕事”をする**ことって大事だと思うんですよね、借りてきた言葉ではなくて。」2006.10.12/編集者/石原正康
- 「**“自分”流の何かを乗っけて、その“仕事”を完成させていく**ということができる人がプロフェッショナルなんじゃないでしょうか。」2007.5.8/経営者/坂本幸雄
- 「本当に**“自分”の“仕事”に対して、強い愛情と強い責任感がないと、プロとはいえない**って私は思ってて、**そういうふうな姿勢で“自分”の“仕事”に臨んでいきたい**なっておもうんですけど。」2010.11.22/絵画修復家/岩井希久子
- 「**“自分”がしている“仕事”に対して真摯である**こと。」2014.6.9/プロサッカー選手/本田圭佑
- 「**“自分”の“仕事”を、手を抜かないで一生懸命やるっていうことだけだ**と思います。」2014.10.2/魚とともに生きる男たち/戸田修一、松本秀樹、村上健一
- 「その“仕事”で最高を目指す高い志、**“自分”の“仕事”を愛し、真剣に向き合う姿勢**。」2016.9.12/日本料理人/奥田透
- 「**“自分”の“仕事”を好きになれば、いろんな人の輪ができて、“自分”を育ててくれることにつながると思う**ので、**“自分”の“仕事”を好きになるのが原点だ**と思います。」2018.2.5/塗師/佐藤則武

自分が「関係者」だと意識し、自らの意志・判断で“仕事”に取り組むということは、当たり前なことだと思われるかもしれない。しかし、プロフェッショナルの言葉を通して、そのプロフェッショナリズムには“仕事”への責任感や自信、愛情などの精神的要素が詰め込まれており、それがプロフェッショナルの仕事に対する意識においての大きな特徴であることが再確認できた。こうした仕事への態度や姿勢は、ビジネス場面における「当事者意識（オーナーシップ）」と呼ばれる概念にもつながっている。つまり、自分の仕事に対して主体性を持って取り組むことである。このように、プロフェッショナルにとって、自分自身を理解するだけでなく、自分の仕事に対しても「自分ごと」のように理解しなければならない。これはいわゆるプロフェッショナリズムの次元である自律性の体現である。

3.「継続力」を持つこと

頻出語においては、“自分”と“仕事”に次いで、“継続”と“いく”も出現頻度が百回以上あり、“自分”と強い共起関係で結ばれている。表 1 にまとめたように、“継続”という語には、他にも“続ける”、“永続”、

臺灣大學學術期刊資料庫

“持続”が異字同義語として統一されている。中でも、複合動詞の“続ける”が最も多く使われている。そして、“いく”に関しては、136回の中117回が補助動詞の“ていく”として使われていることが原文の文脈を通して確認できた。このように、「プロフェッショナルとは」の事例において「継続力」を表す語が特徴的なキーワードとして認められるのである。“継続”と“いく[26]”が用いられた回答例を見ると、二つのタイプが観察された。

（1）自分を高めること、挑戦、進化に関わる「継続力」

“継続”と“いく”が“自分”と共起し、近い位置にある回答例に関しては、下の表8から分かるように、自分を高めること、技術を磨くこと、自分を超えることなど、物事への探求・挑戦、進化といった向上心とそれを継続させるための「継続力」が示唆されている。

表8 “継続”と“いく”が“自分”と共起する回答例（抜粋）

・「もっとおいしいお菓子ができるように、あきらめないで**“自分”を高めて“いき”たい**。」2006.1.24/パティシェ/杉野英実
・「今の“自分”に満足しないで、**“自分”を高め“続け”ていける**というか、そういうことですね。」2008.7.15/棋士/森内俊之
・「“自分”の技術をとめないで、**まだまだ“自分”の技術を磨いて“いく”**ということ。」2008.7.22/板金職人/国村次郎
・「**きのうの“自分”を超えることを“継続”し“続ける”こと**、かな。」2010.8.19/歌舞伎俳優/市川海老蔵
・「**今日の“自分”を乗り越えて“行く”人**っていうのが、プロフェッショナルな人。」2014.1.6/義肢装具士/林伸太郎
・「**“自分”の技術の世界で、常に進歩する余地を求め“続ける”人**。」2014.4.14/外科医/笹子三津留
・「今の“自分”に満足しないで、**常に常に追求を“続ける”こと**。」2017.2.27/救急専門医/城川雅光
・「**“自分”に挑戦し“続け”て、結果を出し“続ける”こと**。」2018.1.15/プロ卓球選手/石川佳純
・「絶対いろんな工夫をしながら**“自分”を進化させて“いっ”てるはずなんだよ**。」2022.1.11/織物職人/金谷博

こうした向上心の継続は、“継続”または“いく”が出現した回答に絞った場合でも窺える。まず“継続”に関しては、図2で“継続”との共起関係が図示された“挑戦”をはじめ、“磨く”、“向上”や“進化”といった向上心を表す語とのつながりが目立つ。そして、“いく”の場合

臺灣大學學術期刊資料庫

[26] ここでは、継続性を表す“ていく”に絞る。

でも、“ていく”が用いられた回答からは、高い志を持つ、可能性を突き詰める、知らない分野へ進むなど、新しい挑戦に対する意欲が見て取れる。それぞれの具体例を表 9 に示す。

表 9 向上心の継続に関する回答例（抜粋）

◎“継続”の場合
・「技術という、原石みたいなものだと思うのですけども、それを**磨き“続ける”人**。」2006.8.31/花火師/野村陽一
・「だから、プロフェッショナルというのは、**向上し“続ける”人**、と思います。」2009.9.15/漫画家/井上雄彦
・「不可能と思える課題であっても、それに**挑戦して努力をし“続け”られる**人。」2010.1.12/研究者/浅川智恵子
・「無限の可能性を信じて、**進化し“続ける”**こと、**チャレンジし“続ける”**こと。」2012.7.9/転職エージェント/森本千賀子
・「そして、**そのひとつのことを磨き“続け”られる**が、プロフェッショナルだと思います。」2019.6.11/カリスマメイド/hitomi（志賀瞳）
・「自分を疑うことで、まあ、その現状に満足せず、**進化し“続ける”**、模索する。」2020.9.1/プロ車いすテニス選手/国枝慎吾
◎“いく”の場合（“ていく”に注目）
・「いつもね**志を高く持って進んで“いく”人**、じゃないかなと思うんですけど。」2008.11.18/認知症介護/大谷るみ子
・「**自分の知らないこと**がいっぱい出てきたときに、何とかそれを可能にするための挑戦。**挑戦して“いか”ないと、プロじゃなくなっちゃう。**」2013.9.2/クリーニング師/古田武
・「自分っていうのは**可能性を突き詰めて“いく”**。」2013.9.16/医師・国際 NGO 代表/川原尚行
・「**僕の知らないような分野があったらそこにどんどん進んで“いき”たい**ですね。」2016.5.2/プログラマー/山内奏人
・「古いものを知って、それを勉強することによって**新しいことを生み出して“いく”**。」2019.9.24/包丁研ぎ職人/坂下勝美
・「やっぱり、新しい世界をどんどん切り開いてる人たち、**次々に新しい手法を考えて、きっちりと対峙して“いく”必要があるんだろうなと思います**。」2020.9.1/労働組合運営/関根秀一郎

（2）信念を貫くための「継続力」

また、今回描画された〔共起ネットワーク〕で語群として図示されていないが、“継続”が用いられた回答例の文脈からは、今取り組んでいる仕事に向け、持つべき信念や態度に視点を置いた答えも確認できた。表 10 に示したように、プロフェッショナルの個性や職種によって表現の仕方が多様であるが、そこには個人の信念を持ち続ける姿勢と、その信念と一致した行動を継続するという明確な意志が示されているのである。

臺灣大學學術期刊資料庫

表 10 信念と一致した行動の継続に関する回答例（抜粋）

- 「つまり**本当に大事にしているものを守り“続け”ている、信じ“続け”ているということ**ではないかなあと思います。」2006.7.13/棋士/羽生善治
- 「自分の中にある**弱い自分に負けない、強い心を持ち“続ける”こと**ですね。」2008.6.17/茶師/前田文男
- 「**自分らしく生き“続ける”こと**が、自分に与えられた使命。」2011.11.14/プロサッカー選手/本田圭佑
- 「**命をかけるようになりたいと思い“続ける”こと**、それがプロフェッショナル。」2012.8.27/糀屋女将/浅利妙峰
- 「やっぱりね**こつこつとお客様のことを考えながらやり“続ける”こと**が、プロじゃないかなと思いますね。」2013.6.10/居酒屋店主/中村重男
- 「**根性ですね**。技術うんぬんではなく、精神面だったり、**強い心、そして芯の通った気持ちを持ち“続ける”こと**が、プロフェッショナルじゃないかなと思ってます。」2015.11.16/曳家職人/石川憲太郎
- 「**自分の仕事に自信と誇りをもって**取り組めているかどうか。そして、**自分の仕事を通していかに世のため人のためになることができるか**という**その使命感を持ち“続け”られる**かどうか。」2018.4.16/クラブ経営者/白坂亜紀
- 「**情熱と誇りを持ってコツコツと同じことを“続け”られる**。ますますそれが大切だということを実感しました。」2021.1.5/芸術監督/吉田都
- 「今あるものから、なんか未来のこと、**次の世代のことを考え“続け”られる人ってこと**なんかじゃないかなと思います。」2021.4.20/ワイン醸造家/斎藤まゆ
- 「そのゴールがないみたいなことを知ってても、それでもなおこう**最善、最適、最高を求められる人**。そして、**それを“続け”られる人**かなって思いました。」2022.3.15/社会起業家/川口加奈

以上見てきたように、プロフェッショナリズムの形成において、「継続力」が重要な役割を担っていることが分かる。日本厚生労働省が 2002 年に発表した『キャリア形成を支援する労働市場政策研究会』報告書において、キャリアは「時間的持続性ないしは継続性を持った概念」と定義されている。このように、どのような仕事・職種であろうと、ある分野の専門家としてキャリアを積む上で、「継続力」がそのプロフェッショナリズにおいては不可欠な基本的要素として求められると考えられる。

六、語群のグループ別にみるプロフェッショナリズム要素の特徴

以上、出現頻度の高い語を中心に、プロフェッショナルが思うプロフェッショナリズの特徴について見てきた。ここでは、図 2 の〔共起ネットワーク〕全体に注目し、描画された語群について検討する。そこで KH Coder による色分けを参考した上、原文での文脈を確認

臺灣人學學術期刊資料庫

した結果、図 3 のようにグループ分けをした。

それぞれのグループから読み取れた話題をまとめると、次のようである。①自己理解・仕事理解、②向上心と継続力、③自身の信念（目標達成志向）、④自身の信念（相手志向）、⑤責任感と未来を見据える姿勢、⑥前向きな態度である。以下、順に追って説明する。

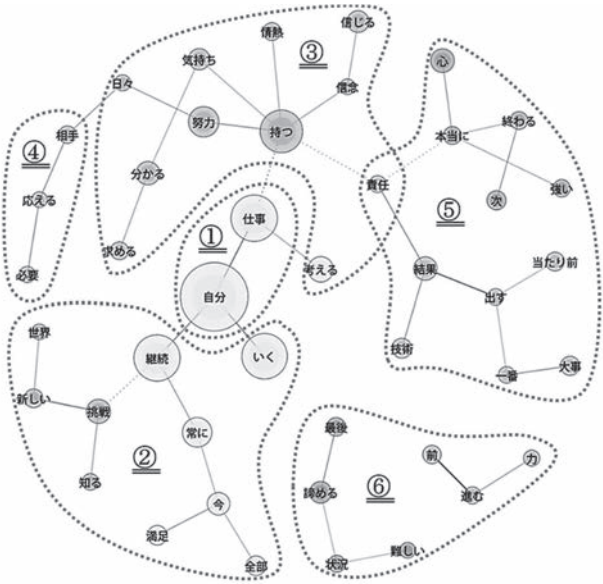


図 3 話題のグループ分けを行った〔共起ネットワーク〕

（一）グループ①と②

グループ①と②は、前節で出現頻度の高い語を中心に分析した結果を踏まえ、命名した。①自己理解・仕事理解に関しては、「“自分”－“仕事”」の結びつきから「自己理解力」と「仕事＝自分ごと」という特徴が読み取れた。そして、②「向上心と継続力」は“継続”と“いく”が用いられた回答例を中心に、「向上心」に代表される様々な形で語られた「継続力」という特徴を見てきたが、“継続”に関しては、グループ②ではさらに「“挑戦”－“知る”－“新しい”－“世界”」と「“常に”－“今”－“満足”－“全部”」という二つの語群が見られる。原文での文脈を探り、それぞれの語群から読み取れた話題を以下のように要約する。まず、「“挑戦”－“知る”－“新しい”－“世界”」の語群

臺灣大學學術期刊資料庫

では、“知ら”ないことや“新しい”こと、“新しい”“世界”に“挑戦”するという未知を知ろうとする意欲を見せた回答例が多い。そして、「“常に”－“今”－“満足”－“全部”」の語群からは、“常に”“今”の状況に“満足”しないという姿勢が窺え、また“全部”が用いられた回答においても、物事に対して“全部”を成し遂げたいという究めの精神が見られる。このように、図3左下の二つの語群からも前節で分析した「向上心」に関する話題が見て取れる。

（二）グループ③と④

次に着目したいのが図3の左上にある語のつながりである。③と④のグループからは、プロフェッショナルと認められる人はどのような要素・条件を持つべきか、いわゆるプロフェッショナル自身が持つ価値観や信念を表す話題が多く読み取れた。また、その語られた内容によって、さらに「目標達成志向」の信念と「相手志向」の信念に分けられる。原文での文脈を探り、それぞれのグループにおいて語られたプロフェッショナルの信念について以下のように要約する。

グループ③では、プロフェッショナルの条件として「“信念”・“情熱”・“責任”を“持ち”、“努力”する」ことに関する回答例が多くされている。また、プロフェッショナルによって重視するものが異なるが、「自分が大事にしている“気持ち”」や「“信じる”・“考える”」といったことを信念としている回答も見られる。さらに、“分かる”と“求める”が用いられた回答例に関しては、「“分かる”ことの大切さ」が語られた一方、「自分がプロなのかは“分から”ない」と言い、そのために「何かを“求める”」という姿勢を見せた興味深い内容も読み取れた。具体例を下の表11に示す。

グループ③における信念を見ると、そこには自分なりの理想や目標、やりがいを追い求め、自己実現を重視する点に特徴がある。いわゆる松尾（2006）が示した「目標達成志向」の信念に当たる。松尾（2006）では、「目標達成志向」とは、明確な目標を設定し、情熱・熱意をもって努力・挑戦し、その結果として、自己実現や学習を重

臺灣大學學術期刊資料庫

視する考え方だ[27]と説明している。このように、プロフェッショナルにとって、自己実現や目標達成の過程において、信念が欠かせないプロフェッショナリズム要素であることが明らかになった。

表 11 「目標達成志向」の信念に関する回答例（抜粋）

- 「誇りだけで**“責任”がとれない人はだめです**。（略）やっぱり**“努力”しないといけない**。」2006.1.17/小児心臓外科医/佐野俊二
- 「自分が思ったことやイメージしたことを確実に形にすること。**そのための“情熱”、行動力を“持ち”続けること**だと思います。」2008.2.12/音楽プロデューサー/武部聡志
- 「**“信念”を“持っ”て突き進み**、夢を実現できる人たち。」2009.6.30/燃料電池車開発/藤本幸人
- 「いろいろな可能性を推測できる、と同時に、**優先順位がパッと直観的にみえて、走りながら“考え”、修正し、また“考える”ということができる人**。」2009.11.17/作業療法士/藤原茂
- 「自然の流れを大切にして。すべての人を、**すべての流れを“信じ”て、ゆだねるということができる人だ**と思います。」2010.12.13/ホスピス看護主任/山本美恵
- 「根性ですね。技術うんぬんではなく、精神面だったり、強い心、そして**芯の通った“気持ち”を“持ち”続けること**が、プロフェッショナルじゃないかなと思ってます。」2015.11.16/曳家職人/石川憲太郎
- 「**自分の“気持ち”に正直に生きていくことで見つけた大切な“気持ち”を自分が“信じ”続けること。**」2020.2.4/虐待・貧困支援/高橋亜美
- 「高度の知識と、それから技術を持って、仕事を継続してやっていくことって思ったんですけど、**“情熱”を“持っ”て、熟練した仕事を継続してやっていける人**。」2020.9.22/女優・ユニセフ親善大使/黒柳徹子

一方、グループ④に見られたのは「相手志向」の信念である。「“相手”－“応える”－“必要”」という語群からは「“相手”の期待と信頼に“応える”」という話題が見て取れる。なお、今回の〔共起ネットワーク〕では語群として図示されていなかったが、各語の文脈を探る際に確認できた例もあり、また「相手志向」の信念をより探るため、“お客様”や“相手”などの関連語が用いられた回答も文脈の確認を行い、具体例を抽出した。このように複数なアプローチから読み取れた「相手志向」の信念に関する回答例を表 12 にまとめて示す。

この「相手志向」でいう「相手」とは、職業によっては顧客であったり、患者であったり、ファンであったりする。また仕事仲間を指す場合もある。つまり、プロフェッショナルが仕事において向き

臺灣大學學術期刊資料庫

27 松尾（2006）、P.137

合う人々のことである。表 12 の回答例が示したように、その人たちの期待や信頼、要望に応えること、または相手を思い、向き合うことがプロフェッショナルの持つべき信念だと言えよう。これはプロフェッショナリズムの献身性の次元に属した要素でもある。

表 12 「相手志向」の信念に関する回答例（抜粋）

◎「“相手”－“応える”－“必要”」の語群にみる例
・「**“相手”の要求に的確にすばやく“応え”られる人**が、私プロだと思います。」2009.7.7/特殊メイクアップアーティスト/江川悦子
・「あと**周りの期待と信頼に“応える”**べく努力することも**“必要”です**。」2010.3.2/山岳警備隊/山田智敏
・「チームやファン、**様々な人たちの期待に“応える”**。それが、一番大切だと思います。」2017.5.1/メジャーリーガー/田中将大
・「**お客さんの要望に必ず“応える”**ということ。（略）**“応えられる”ように一生懸命努力しなきゃいけない**。」2019.7.2/電器店主/今井和美
・「**“相手”が望む以上のもの**を安定的に供給できる人。なんか、**期待に“応える”のは当たり前だ**し、**“応え”られないのはプロ失格だ**し。」2020.10.2/タレント/田中みな実
・「その時、**“相手”が求めてるものを察知できる感性**を持ってる。で、**それに“応え”られる人**、そういう人がプロフェッショナルかなと思います。」2021.2.9/鍼灸師/大髙茂
◎その他のアプローチにより、確認できた例
・「決しておごらず**常に“相手”の状況を考えて心を通わせ、その時その時の最適の判断をする**。そしてそのための努力を怠らないことです。」2009.2.1/航空管制官/堀井不二夫
・「**こつこつと“お客様”のことを考えながらやり続けること**が、プロじゃないかなと思いますね」2013.6.10/居酒屋店主/中村重男
・「その経験を元に、**全ての“お客様”に安心感を与えられることができる人だ**と思っています。」2016.4.4/引っ越し作業員/伊藤秀男
・「“**相手”を思うっていう事です**かね。“**相手”の事を思ってなるべくその人たちが喜んでくれるようになったり**とか。」2018.5.21/家政婦/タサン志麻
・「**期待されている以上のもので、“お客さま”に還元すること**。」2019.4.16/美尻トレーナー/岡部友
・「**本当に生徒のことを、生徒と向き合って、生徒のこと考えて最善を尽くせる人**、とことんそれを考え抜いてやれる人。」2021.5.25/夜間中学教師/入江陽子

（三）グループ⑤と⑥

グループ⑤では、二つの語群が描き出されており、主に責任感をめぐった話題が読み取れた。表 13 において、“本当に”、“心”、“強い”といった語が用いられた回答からは、言葉の意味通りにプロフェッショナルの心からの仕事に対する意気込みと心構えが窺える。また、“終わる”の場合は、「プロの仕事には“終わり”がない」という前述のような継続に関する答えが見られる一方、「自分なりの信念を貫かないと、プロとしては“終わり”だ」という仕事に対する強い責任

臺灣大學學術期刊資料庫

感とプロ意識を見せた答えもある。さらに、“次”が用いられた回答では、“次”の仕事や“次”の世帯に繋ぐという未来を見据えた姿勢が認められ、今の仕事に止まらず、未来に繋ぐことに対する責任感が見て取れる。

続いて、“責任”と共起関係を持つ“結果”に注目すると、「“責任”－“結果”－“出す”－“当たり前”」や「“責任”－“結果”－“出す”－“一番”－“大事”」といった語のつながりから垣間見れるように、プロフェッショナルが結果を出すことに対して強い責任感・使命感を持っていることが分かる。また、原文での文脈においても「プロとして“結果”を“出す”・“結果”を残すべきだ」、「その“結果”に“責任”を持つ・“責任”を負える人がプロだ」など、プロフェッショナルとしての責任感が読み取れる発話が多い。このように、グループ⑤では、プロフェッショナルの仕事に対する真摯な態度と未来への目線を通じて、専門家としての責任感を改めて確認することができた。

表 13 責任感をめぐった話題に関する回答例（抜粋）

◎“本当に”、“心”、“強い”
・「プロっていうのは、僕は**今日のためじゃなくて、“本当に”明日のために仕事が出来る人**。」 2006.7.6/カーデザイナー/奥山清行
・「**“本当に”自分の仕事に対して、“強い”愛情と“強い”責任感がないと**、プロとはいえないって私は思ってて。」 2010.11.2/絵画修復家/岩井希久子
・「周囲の人や仲間たちの成長に**“本当に”素直に“心”から喜べる人だ**と思います。」 2013.4.15/小売り経営/三枝富博
・「そこを問いかけて、**自分の“心”に立ち戻って、誠実に正直に生きていく人**が**“本当に”“強さ”をもっていて**、プロフェッショナルだと思いますね。」 2019.7.30/ジェラート職人/柴野大造
◎“終わる”、“次”
・「きっと**“終わる”ところがないと思う**のですが、**その“終わら”ない道を少しでも前にいく努力をいつもできる人**、そういう人だと思います。」 2008.5.27/UNHCR ウガンダ・リラ事務所長/高嶋由美子
・「**逃げちゃえばそこで“終わり”になっちゃいます**ので、挑戦があるのみだと思います。」 2009.1.6/へら絞り職人/松井三都男
・「その結果として、その自分のそれぞれの技術エリア、技術レベルを一歩も二歩も前進させて、**“次”の世代に引き継いでいくことができる人**。」 2010.1.12/研究者/浅川智恵子
・「自分が到達した技術、学んだ技術、経験を、**“次”の世代に伝えようとする**。」2014.4.14/外科医/笹子三津留
・「**明日よりまた“次”っていうふうにね**。**満足してしまったら“終わり”なんで**。人は伸びないと思いますんでね。」 2016.6.6/沿岸作業員・監督/高野勝司
・「まあ追求でしょうね「なぜ」は。**それがなくなったら、そこで“終わり”でしょうね**。」 2019.4.2/菓子職人/小幡寿康

◎“責任”－“結果”－“出す”－“当たり前”／“責任”－“結果”－“出す”－“一番”－“大事”
・「プロフェッショナルだから**“結果”を“出さ”ないと駄目ですね**。」2006.7.2/料理人/德岡邦夫
・「自分の経験と自分の知識とそれから技術と、それを総動員してかつ、**その“結果”についてすべての“責任”を負える人間**、それがやっぱりプロフェッショナルと思います。」2008.9.16/大腸内視鏡医/工藤進英
・「自分の技術、経験、知識を生かしながらですね、**“結果”を残すこと**。そしてその“結果”、**いい“結果”も悪い“結果”も全てにおいて自分の“責任”を負えること**。」2017.1.30/ゾウ飼育員/椎名修
・「**“結果”を“出す”**ために、ありとあらゆる方法を調べて身につけて、**“結果”を“出す”**ために動く。それは**プロフェッショナルとして“当たり前”のことです**から。」2018.1.2/訓練士/中村信哉
・「言い訳をせずに**いつでもしっかりと“結果”を“出す”**、誠意を持ってベストを尽くすそういう人だと思います。」2020.3.31/テーマパーク保守・点検/福貴田崇

最後に、グループ⑥においては、「“前”－“進む”－“力”」と「“最後”－“諦める”－“状況”－“難しい”」という二つの語群が見られる。表14では、「“前”－“進む”－“力”」の語群に関しては、ひたむきに前進することを信念とする答えが多い。一方、「“最後”－“諦める”－“状況”－“難しい”」は言葉からすると、ネガティブな印象であるが、実際原文での文脈を確認すると、表14の事例が示したように、“最後”まで“諦め”ないことや如何なる“状況”に置かれても立ち向かうこと、“難しい”課題でも“諦め”ないことなど、前向きな態度を取る答えが目立つ。このように、グループ⑥では主に前向きな態度で仕事に取り組むというプロフェッショナリズム要素が読み取れたのである。

表14 前向きな態度を示す回答例（抜粋）

◎“前”－“進む”－“力”
・「立ち止まらずに**“前”に“進む”こと**でしょうね。」2008.7.22/板金職人/国村次郎
・「自分に対して問題意識を持って、**“前”に“進み”続けることができる、そういう人間だ**と思います。」2013.7.8/模型会社社長/宮脇修一
・「**“進む”べき道を、見つけ出す“力”です**ね。」2017.5.15/小児集中治療医/植田育也
・「どんなことでも胸を張って言えて、そして**常に“前”に“進ん”でる人だ**と思ってます。」2020.8.4/競泳選手/萩野公介
◎“最後”－“諦める”－“状況”－“難しい”
・「**どんな“状況”**になろうとも自分のベストを尽くすべく、**その試みを“最後”まで“あきらめ”ずにすることです**ね。」2007.1.25/指揮者/大野和士
・「**逃れられない困難な“状況”にあっても、それを宿命として受け入れる**。」2009.1.13/診療所医師/中村伸一
・「**“難しい”課題に対しても**、何か工夫してアプローチできるかな、と。**“諦め”ない、**いろんな方法を工夫してトライしていく。」2013.4.22/麻薬探知犬育成/菊地昭洋

臺灣大學醫療館期刊資料庫

・「**目の前にあることを“諦め”ないで、ハードルが高くても、何か解決のアプローチを探ること**とか、考えること、それで実行に移すことぐらいしかないと思うんですよね。」2020.6.9/編集者/岩佐十良

以上見てきたように、番組に登場したプロフェッショナル達は職業が各分野に渡り、個性もそれぞれ異なるが、530 件のデータをテキストマイニングで分析した結果、彼らの精神的な側面や仕事ないしプロに対する意識における共通の特徴を様々な視点により窺うことができた。

七、おわりに

専門的職業人であるプロフェッショナルは優れた知識や技術を基に顧客が抱える課題の解決を通して組織や社会に貢献しているが、プロフェッショナルとしての役割を遂行する上で鍵を握るのがプロフェッショナリズムである[28]。以上、日本 NHK のテレビ番組から抽出した全 530 件のプロフェッショナルの発言を文字化したテキストデータを分析対象とし、テキストマイニングで分析した。まず頻出語の中で最も多く出現している“自分”を中心に見てきた結果、日本のプロフェッショナルが最も重んじる精神要素が明らかになった。その共通する特徴を次の図 4 のようにまとめた。

多角的に自己理解	仕事＝自分ごと	継続力を持つ
‣ 自分がなすべき行動と限界に対する理解 ‣ 自分の内面への理解	‣ 自律性の体現 ‣ 仕事への責任感や自信、愛情など	‣ 向上心の継続 ‣ 信念を貫く姿勢

図 4 プロが思うプロフェッショナリズム要素の特徴

さらに〔共起ネットワーク〕にある全般の語群をグループ分けした上、考察した。それらの語群や談話内容からも図 4 のような特質が再確認できた。また、グループ③と④の分析からは、日本のプロフェッショナルの信念には、「目標達成志向」と「相手志向」の二種

臺灣大學學術期刊資料庫

[28] 小野寺（2019）P.87

類あることが分かった。

本稿では数多くのプロフェッショナル達の言葉を素材として分析してきた。それにより、一般的に我々が見られる表にある技術的側面よりも、その内面にある精神的な側面の特徴がより鮮明に読み取ることができた。今回は初めての試みなので至らない点が多々あるかと思うが、日本文化理解に少しでも役に立てれば幸いである。

また、本稿の分析により、日本のプロフェッショナルが特に「自律性」に拘りということが窺える。これは、日本の伝統的精神文化とは深く関わっていると考えられる。それを今後の課題としたい。

【参考文献】

牛澤賢二（2021）『やってみようテキストマイニング－自由回答アンケートの分析に挑戦!－【増訂版】』朝倉書店

瓜生原葉子（2012）『医療の組織イノベーション：プロフェッショナリズムが移植医療を動かす』中央経済社

落合由治（2020）「日本語関係人文系研究の質的研究におけるテキストマイニング手法の応用と課題」『台大日本語文研究』第 39 期、台湾大学日本語文学科、pp.101-130

落合由治（2021）「文章ジャンルに基づくテキストマイニング応用の考察－日本関連分野での活用を目指して－」『台灣日語教育學報』第 36 号、台湾日語教育学会、pp.176-205

落合由治・曾秋桂・王嘉臨・葉菱（2022）「文章ジャンルに基づくテキストマイニング結果の比較考察」『言語処理学会第 28 回年次大会 発表論文集』、言語処理学会

許均瑞（2022）「テキストマイニングによる自己主導型学習の可視化－「アニメ・マンガの日本語」の授業実践からの考察－」『台灣日語教育學報』第 39 号、台湾日語教育学会、pp.31-57

小野寺美希子（2019）「プロフェッショナリズム研究の現状と今後の課題」『商学討究』第 69 巻第 4 号、小樽商科大学、pp.87-110

末吉美喜（2019）『テキストマイニング入門：Excel と KH Coder で

臺灣大學學術期刊資料庫

わかるデータ分析』オーム社
曾秋桂（2021）「AI テキストマイニング技術による村上春樹文学研究―『1Q84』論の総合的構築を目指して―」『淡江日本論叢』第 44 輯、pp.1-23
波頭亮（2014）『プロフェッショナル原論』筑摩書房
樋口耕一（2020）『社会調査のための計量テキスト分析―内容分析の継承と発展を目指して【第 2 版】』ナカニシヤ出版
樋口耕一・中村康則・周景龍（2022）『動かして学ぶ!はじめてのテキストマイニング:フリー・ソフトウェアを用いた自由記述の計量テキスト分析』ナカニシヤ出版
松尾睦（2006）『経験からの学習－プロフェッショナルへの成長プロセス－』同文館出版
葉菱（2022）「石牟礼道子『苦海浄土』における水俣病の再読－AI 技術による計量テキスト分析を補助にして－」『台灣日本語文學報』第 52 期、台湾日本語文学会、pp.179-201
林蔚榕（2019）「日本マンガに見るプロフェッショナリズムに関する一考察－料理マンガのプロフェッショナルの特質を中心に－」『台灣日語教育學報』第 33 号、台湾日語教育学会、pp.271-298
Hall,R.H.（1968）Professionalization and bureaucratization, *American Sociological Review*, 33(1), pp.92-104
Snizek,W.E.（1972）Hall's professionalism scale: An empirical reassessment, *American Sociological Review*, 37(1),pp.109-114

【参考資料】

「キャリア形成を支援する労働市場政策研究会報告書」、2002 年 7 月、日本厚生労働省、https://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/07/index.html
『新明解国語辞典 第八版』（2020）三省堂
『カタカナ語辞典 第 5 版』（2020）三省堂
『非営利用語辞典』https://www.koueki.jp/dic/（参照 2023.03.27）
「プロフェッショナル 仕事の流儀」公式ホームページ、https://www.nhk.jp/p/professional/ts/8X88ZVMGV5/（参照 2023.03.27）

臺灣大學學術期刊資料庫